| 教科 | 授業改善のための具体的な取組 | 学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等 | 今年度の評価や修正点 |
|------|--|---|--|
| 国語 | 取り入れる。 ●接続詞の意味に着目して読み取る力を伸ばすため、文章における接続詞の役割を確認する。 ●問いに対して、語尾を適切に書けるよう、普段から主語に正対した語尾の使い方を指導していく。 ●学習の基盤となる読書の習慣化に向けて、読書月間や図書室を有効的に活用する。担任や保護者の読み聞かせ等、読書習慣が身に付くような指導に取り組む。 | 1年 - 文章の中の大事な言葉に着目して、8割の以上の児童が、大事なことを落とさずに聞いたり、自分の思いや考えを言葉で表現したりできるようにする。友達と交流して伝え合う場面を多く取り入れ、想像や考えを豊かに広げていく。司書、担任、保護者の読み聞かせを定期的に行い、読書に対する興味関心を高める。単元や学期の終わりには東京ペーシックドリルなどを活用し、既習内容の確認を継続して行う。 2年 - 事柄の順序を考えながら8割以上の児童が、話したり、日記等に書いたり、大事なことを落とさずに聞いたりすることができるようにする。お互いの思いや考えを伝え合い、交流する機会を多く取り入れる。学期末の授業や宿題等で、東京ペーシックドリルを活用し、既習事項の定着率を高める。 3年 - 文章の読み取りについては、全体を見渡せるような読解指導と、細部を読む指導を組み合わせ、友達の考えに多く触れられるような話し合い活動を行うことで、8割の児童が、叙述をもとに根拠をもって自分の考えを述べられるようにする。また、東京ペーシックドリル、漢字ドリルを活用し、児童が漢字やローマ字の読み取る指導を組み合わせて指導する。様々な読み取りの視点を身に付けられるように、友達の考えに多く触れられるような話し合い活動を行う。その結果、8割の児童が、叙述をもとに根拠をもって自分の考えを述べられることを目標とする。また、東京ペーシックドリル、漢字ドリルを活用し、児童が漢字やローマ字の読み書きを8割以上できるようにする。都道府県については、検定などの取り組みを加え、全児童が読むことができ、8割の児童が漢字で書けるようにする。都道府県については、検定などの取り組みを加え、全児童が読むことができ、8割の児童が漢字で書けるようにする。 5年 - 正く読み取るために接続詞に着目した読み取りができるようにする。授業において、自身の意見の表明の際には、叙述に基づいた根拠を明確にさせるとともに、問いに対する適切な語尾の使用を意識付けるようにしていく。最終的にり割の児童が読み取ったとや自分の考えをペア学習などで友達に伝えることができるようにする。司書と連携し、読書月間や図書室を活用し読書の習慣化を図る。東京ペーシックドリルなどを日常的に活用し、既習内容が定着させる。 6年 - どのような文章でも、叙述に基づいて内容や筆者の考えを読み取ることができるようにする。そのために、細かな表現の工夫を下寧に読み取ったり、様々な技法に対する理解を深めたりする活動を行う。友達とペアや複数、全体で交流する機会を多く設けることで、最終的には、9割の児童が叙述を根拠に、自分の考えを話したり書いたりできるようにする。 | にして解釈したり説明したりできるようになった。自分の体験と学習を結び付けたり、友達との交流を通して、自分の考えを述べたりする機会を設定することができた。だが、学年が上がるにつれて、教材文の内容や構成が複雑になってくるため、的確な叙述を根拠に自分の考えを述べることは、十分にできているとは言えない。今後も意識して指導していく必要がある。東京ベーシックドリルなどを計画的に活用し、既習事項の定着を高めていくようにしたい。 |
| 社会 | 応じて手法を工夫し、継続的に指導する。(3年生 方角・地図記号 4年生 都道府県、東京都の区市町村名、特に自分の住む市の位置など 5年生 県名・特産物・日本の産業6年生 世界の国名・日本の歴史)また、各単元で確実に身に付けたい知識を明確にし、指導に生かす。その定着のため、ベーシックドリルを積極的に活用する。 ●学ぶべき知識についての由来や根拠を関連付けて説明する活動を取り入れる。 ●関心・意欲が高まる資料を提示し、因果関係やおおまかな傾向をつかむ活動や、複数の資料を比較したり関連付けたりする活動を行う。その過程で、話し合いや自分の考えを説明する場を多く設ける。 | 3年-8割の児童が、調べ学習によって集めた情報を再構成して、その事象がどのようなことと関連するのかを考えてまとめることができるようにする。東京ベーシックドリルなどを活用し、全ての児童が四方位と地図記号を9割以上身に付けられるようにする。4年-8割の児童が都道府県の位置が分かったり、漢字表記が書いたりできるようにする。調べ学習を通して分かったことをグループごとに話し合い、分類整理するなどを通して思考力を高めていく。5年-日本の産業に関して、学習に必要な資料を教科書や資料集、地図帳、から自力で探す時間を授業中に確保したり、必要な資料に関して少人数で意見を交換したりする活動を通して、8割の児童が情報を読み解く力を高め身に付けられるようにする。自分で調べたことを新聞やレポートにまとめる活動を通して、社会的な事象に対する自分の考えを表す力を身に付けられるようにする。6年-教科書や資料集、その他の資料を関連付けて読み取ったり、そこから考えられることを話し合ったりする機会を多く設ける。様々な観点をもてるよう、少人数での話し合い、全体での検討を毎時間行うようにする。これにより、8割の児童が資料から必要な情報を読み取ったり、自分の考えを説明したりできるようにする。各単元で身に付けさせたい知識を明確にして児童に繰り返し提示する。必要に応じてベーシックドリルを活用することで、各単元の学習内容の定着を図る。これにより、各単元で身に付けさせたい知識を、8割の児童が習得できるようにする。 | 検定を行うことで定着が図れらた。高学年では資料の読み取りを個人、全体だけではなくグループで話し合ってまとめる活動を取り入れて確かめることで、情報を読み解く力を高めることができた。単元のまとめではポスターやリーフレット、新聞などにまとめる活動を通して、学習を定着させるとともに表便する力を高めようとしている。引き続き、これらのことを大切にするとともに、高学年でもベーシックドリルなどを活用して、既習事項の定着を高めていきたい。 |
| | め、考察、発表する学習活動を行う。 ●児童が興味・関心をもって問題解決学習に取り組めるような問題提示を工夫する。また、生活に即した学習課題を多く取り入れる。 ●問題を読んで場面をイメージし、課題を明らかにしたり、既習事項を関連付けたりする。 ●言葉・数直線・図・式などを使って、筋道を立てて解き方を考え、ペア学習や集団討議を行い説明させる。 ●数量や図形について豊かな感覚が育つよう、数学的活動を充実させる。 ●東京ベーシックドリルを活用し、計算・作図などの練習を継続して行い、知識・技能の定着を図る。 ●授業の終わりにねらいに対応した振り返りを行う。 | 説明ができるようにする。問題把握の場面では、分かったこと、聞かれていること、単位に印を付ける。学期末の授業や宿題等で、東京ベーシックドリルを活用し、既習事項の定着率を高める。 3年一問題を提示し、児童自身が既習事項と比較しながら、本時の課題を把握する。自力解決する時間を大切にし、自分と向き合わせる。友達との考えの比較から、自分の考えを見つめ直し、解決の過程を振り返らせる。最後に本時の大切なところを自分たちの言葉でまとめ、適用問題に取り組む。少しずつ振り返りの時間を設け、単元全体を見通してまとめられるようにする。 4年一「分かっていること」「求めたいこと」を明確にし、前時までとの違いから本時のめあてを児童自らがもてるようにする。自分の考えを書く時間を確保し、ペア、全体で検討する中でよりよい「速い、簡単、正確、どんなときも」使える考えを導き出し、児童の言葉でまとめられるようにする。振り返りで学んだことを自覚し、今後生かしていく意欲をもたせる。 5年一既習事項を活用しながら問題を解決していく活動を通して考えていく。文章題の読み取りを確実なものにするように数直線や図などに表す力を養ったり、立式の理由を図や表、数直線などを用いて分かりやすく説明したりするペア活動を取り入れる。 | 高学年では、既習事項を活用して、図・式・表・グラフなどを関連させながら、解決することができた。 指導者が各学年の領域ごとの系統性を正しく理解し、意識して指導していくことで、数学的な見方・考え方が育成できる。よって、各種学力調査における本校の傾向を知り、東京都算数教育研究会の実態調査の結果などから、間違いの多い点を把握し、指導を重点的に行えるよう、共通理解を図ってい |
| | ●主体的に課題に取り組み、児童が自ら問題を見出しせるような導入の工夫をする。 ●実感を伴った理解をするため、日常生活や既習事項と結び付けて予想したり、実験方法を考えたりできるように資料や掲示物を工夫する。 ●実験や観察を少人数で行い、基本的な実験器具の取り扱いを確実に行えるようにし、繰り返し指導することで技能の向上を目指す。 ●実験結果や資料などを読み取り、規則性を見出すときには、対話的な活動を取り入れ、確実に言語化できるようにする。 ●考察を書く際には理科の用語を使い相手に自分の考えが伝わる表現になるよう意識させる。 ●ベーシックドリルを積極的に活用して知識・理解の定着を図る。 | | する児童が多くなってきた。仮説や予想を振り返ることで結果から妥当だと思われる結論を考察できるようになってきている。実験結果や資料をもとに対話する力が少しずつついてきている。知識の定着は単元ごとの一問一答式の振り返りで少しずつできるようになってきている。 |
| 音楽 | ばし、互いの音を聴き合いながら、思いや意図をもって主体的に表現活動に取り組めるようにする。 ●鑑賞活動では、楽曲の特徴や演奏のよさに気付かせられるよう、楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表す活動を行う。 | 1年一楽しく歌ったり、演奏したり、曲に合わせて身体を動かしたりできるようにする。鑑賞活動では、楽曲を聞いて感じたことをプリントに書いたり発表したりし、友達の思いも知ることができるようにする。 2年 - 鍵盤ハーモニカはタンギングや運指を意識して友達と合わせて演奏できるようにする。拍を意識し流れに乗れるようにするため、リズム打ちなどを通して身に付けさせる。 3年 - リコーダーの基礎的奏法を身に付けさせ、合奏へ発展できるようにする。音の重なりや変化を感じ取って表現したり、鑑賞したりできるようにする。 4年 - 音色・強弱・速さ・曲想などを、互いに聴き取ったり表現したりしようとする態度を身に付けさせる。 5年 - 楽器や合唱の技能を伸ばして演奏に対する苦手意識を減らし、合わせて演奏することの大切さを、演奏活動を通して身に付けさせる。 6年 - 合唱や合奏を通して、曲想を考えながら表現しようという気持ちと自発的に表現できる技能を育てる。 | ていたことを概ね8割の児童ができるようになった。 |
| 図画工作 | 的に取り組める力を育てる。 ●表したいことに合わせて、材料や用具を活用できるような力を育てる。 ●制作や鑑賞を通して、様々な作品のよさや美しさなどを自分の言葉で表現し、友達と交流できるようにする。 | 1年ー表したいことを見付け、形や色、材料の特徴に着目し、そのよさを感じながら表現を体験できるようにする。材料や用具を活用し、基礎的な道具の使い方を学べるようにする。鑑賞カードを活用し、作品のよさを見付けたり伝えたりする。2年ー作業前に作品のイメージを膨らませる時間を確保することで、見通しをもって作品を制作できるようにする。鑑賞カードを活用し、作品のよさを見つけたり伝えたりする。3年ーいろいろな材料や表現方法に出会う機会を増やし、友達と協力することで表したいことを見付けられるようにする。道具を大切にし、正しい使い方ができるようにする。 4年一つくることや見ることを楽しみ、意見を交流し、集団の中でも自分の気持ちを表現し、お互いの表現を認め合える力を育てる。道具を大切にし、使い方を工夫することができるようにする。 5年一既習事項を活かし、自分のイメージに合った材料や方法を選べるようにする。手順を考えて制作に取り組めるようにする。道具を大切にし、使い方を深め、自分の表したいことに合わせて使い方を工夫することができるようにする。鑑賞活動や、めあてを共有する活動の中で、自分の表現を広げられるようにする。 6年一既習事項を活かし、自分の想いを表現するために必要な手順や方法を考え、見通しをもって取り組めるようにする。道具を大切にし、基礎基本を大切にしながら、自分の表したいことに合わせて使い方を工夫することができるようにする。鑑賞活動や、めあてを共有する活動の中で、自分の表現を広げられるようにする。 | けでなく、自己肯定感を高めることにも繋がった。 展示した作品を鑑賞し、交流することが日常となっており、児 童の意欲を高め、次学年の見通しをもつことができた。 |
| 体育 | 動に生かせるようにする。 ●個に応じた運動ができるような学習の場を設定する。 ●学習カード(ノート)を使い、振り返りをし、学習したことを次に生かせるようにする。 ●ペアやグループの活動を取り入れることで対話的な学びができるようにする。 ●学習のめあてを設定し、児童がめあてに沿って主体的に学習に取り組めるようにする。 ●学習の流れを示し、児童が見通しをもって主体的に学習できるようにする。 ●主運動につながるような準備運動、感覚つくり運動を取り入れることで、着実に技能を身に付け、主体的に運動に取り組めるようにする。 ●体カテストの結果全ての学年で、「立ち幅跳び」の数値が全国平均より下まわった。脚筋の瞬発力を付けさせるとともに、体全体を使ったフォームで跳ぶことに取り組む。 | グループでの活動で、互いに見合ったり話し合ったりする中で、遊びを工夫していけるようにする。 2年-学習カードを用いることで、めあてを意識させて取り組ませたり、次につながるように振り返りをしたりできるようにする。 楽しく活動する中で、いろいろな運動に親しむことができるようにする。 3年-学習カードを使用し、授業のめあてに沿った振り返りができるようにする。実態に応じた学習の場の設定を大切にしてい く。カードや掲示物を活用して、模範となる動きのポイントを児童に示していく。児童が互いに教え合いや学び合いができるよう | る流れが定着してきた。友達と一緒に話したり、考えたりして 運動することのよさを感じさせることができた。各領域の運動 に取り組む上で、児童がどのような運動を求めているのか、 どう取り組んでいきたいのかを考え、教師のねらいと児童の 欲求をすり合わせていく必要がある。 |
| 家庭科 | 分の生活と結びつけて考えられるようにする。 ●資料や写真から読み取ったり学んだりしたことが実生活で生かすことができるような教材を用意する。 ●友達と考えの交流を通して、自分の考えを深め、よりよい生活のために創意・工夫することができる場面を設定する。 | 5年-身近な生活の中から課題を見付け、学んだことを実生活に活かしていく学習の流れを大切にしていく。家庭科の学習と日常生活との関連を図り、実践的・体験的な学習になるように工夫する。友達と体験したことや考えを交流し、生活課題を意識したり実生活に応用したりできるようにする。 6年-学んだことを積極的に実生活や行事に活かすことができる学習の流れを大切にする。資料から読み取ったことや児童が自分なりに考えたことを、友達と交流することで、自分の考えを深め、よりよい生活のために創意工夫できる場面の設定や教材を用意する。 | なった。今後は基礎的な知識や技能の定着を図っていくため |
| 生活科 | 験をさせる。 ●児童が自分のよさや可能性に気付き、自信をもって生活できるように、成長について友達と交流したり対話したりして、実感できるような活動を設定する。 | | 多様な体験活動を通し、自分なりに表現し伝え合う力が高まった。今後も、実践を伴った学習野中で生きる力がついていくよう、単元計画を工夫していく。 |